

＜今日の説教のポイント ルカによる福音書 18章9-14節＞

1 先週(18:1-8)に続いて、祈りを通して教えられるイエス様。

イエス様は、先週の個所では「絶えず祈る」ことの大切さを教えられました。それは祈りの形や回数ではなく、「神様をいつも覚えながら生きること」の大切さを意味していました。それに続いて今日の個所でも、イエス様は祈りの姿を通して大事なことを教えられています。それは何でしょうか。先週教えられたことと関係あるのです。

2 (9) うぬぼれとは、自分は正しいと自分に確信を持っていること。

ルカはまず、イエス様が「**自分は正しい人間だとうぬぼれて、他人を見下している人々**」(9)について教えられたと説明しています。「うぬぼれて」を直訳すると「自分自身に確信を持っている」です。自分は正しいと確信を持っているから他人が言うことやその人自身を見下す一分かるような気がします。イエス様は、その問題性を神様に向かって祈る姿の中で考え、教えようとされたわけです。

3 (10-12) 祈っているけれども祈っていない祈りになっていないか？

「**心の中で祈った**」(11)は直訳すると「自分に向かって祈った」です。ファリサイ人は、神殿に来て「**神様、わたしは**」と色々なことを祈るのですが、彼が考えていることは十戒の戒めをはじめとして律法で決められている内容に沿った線で考え、それらを守り、あるいは上回って行っているということであり、本当に神様その方に向かっているのだろうか、そんな気がして来ます。言い換えると、神様その方ではなく、律法や他の人を気にし相手にしているのではないかと思えてきます。

4 (13-14) 正しくなることでなく、赦されて生きられることを喜ぶ！

「**(わたしを)憐れんでください**」(13)の「憐れむ」は直訳すると「(罪を)贖う、償う、なだめる」で聖書の中心メッセージと関係する語です(ローマ 3:21-26、ヘブライ 2:17-18)。徴税人はまさに神様に向かって祈っていることを考えさせられる表現で記されています(13節)。「**義とされて(裁判用語：無実だと宣告されて)家に帰ったのはこの人だ**」(14)とイエス様は言われました。「**人の子が来るとき、果たして地上に信仰を見出すだろうか**」(8)と言われたイエス様の問いかけは、この赦しに満ちた神様を思い、それに比してうぬぼれやすく、人を見下しやすい自分を赦し愛して下さる神様に深く感謝して生きる者となるように、と私たちに教えておられるのではないのでしょうか。